

酒蔵ツーリズム事業案内

公益社団法人 日本観光振興協会

(日本酒蔵ツーリズム推進協議会 事務局)

1. はじめに

①酒とツーリズムについて

1. 親和性、類似性がある

- ・地域ならではの特色がある点（地域ブランド）
- ・自然と文化が重要な要素である
- ・食が重要である

2. 共通する大きな役割

- ・観光≡酒≡触媒（catalyst）としての役割
- ・地域経済を活性化する
- ・地域の文化・歴史を知る機会を与える
- ・人々の交流を促進する

3. 酒蔵のストーリーが、魅力あるツアープログラムとなる

- ・酒蔵見学だけではなく、地元で地酒を消費してもらう仕組みづくりを宿、飲食店などと連携して促進する

②無形有形文化財としての酒造り、酒蔵

1. 登録無形文化財となる

2021年10月15日に、「伝統的酒造り」を登録無形文化財に登録すべきとの答申が文化審議会から文部科学大臣に提出された。酒は、日本の食文化の歴史において、最も古くから定着しているもののひとつであり、「古事記」や、奈良時代の「播磨国風土記」にもその記述がある。

2. 有形文化財としての価値

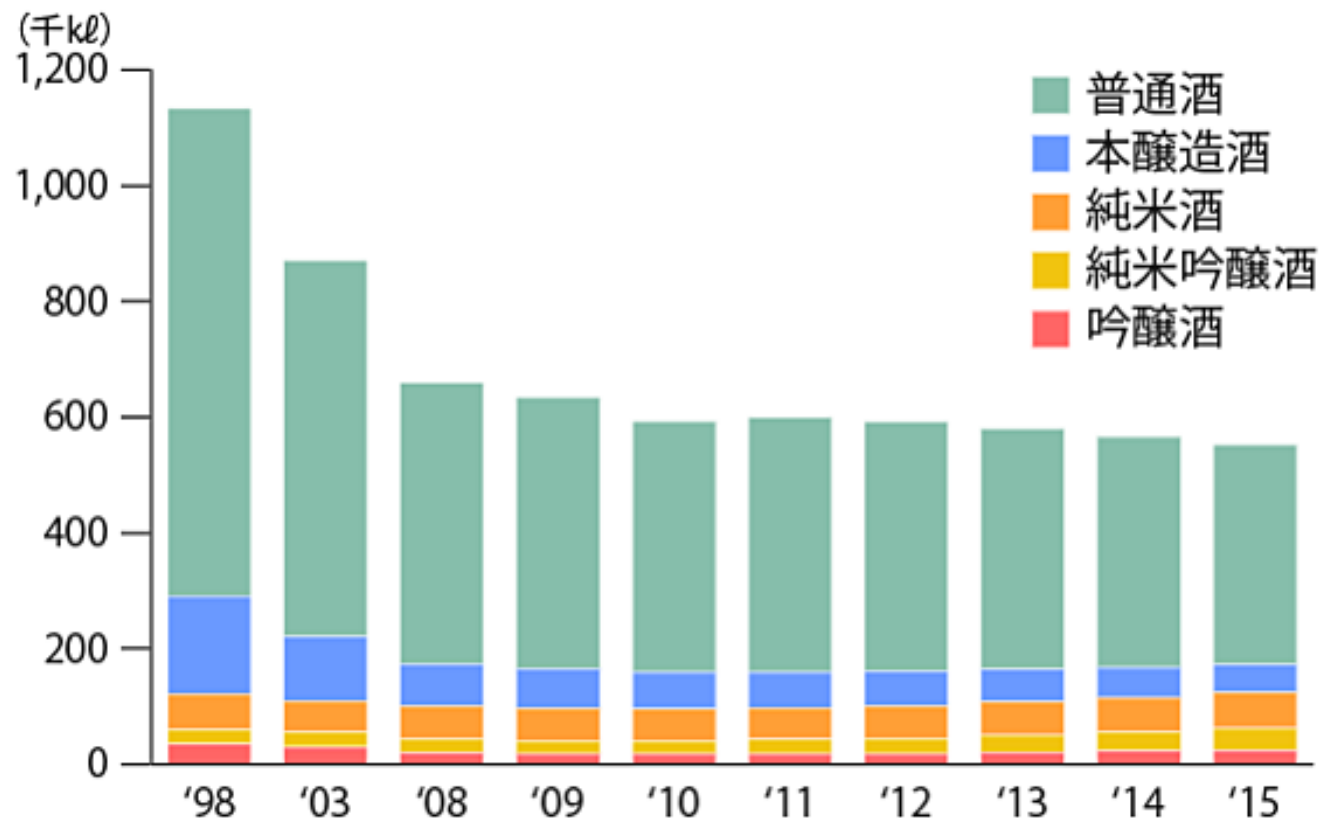
各地域の酒蔵の建物で100年以上の歴史があり、国指定の有形文化財として登録されているものも少なくない。

3. 和食のユネスコ登録

平成25年12月、「和食；日本人の伝統的食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されており、醸造文化である日本酒は関連性が高い。

③日本酒の国内の現状

■ 日本酒の国内出荷量の推移

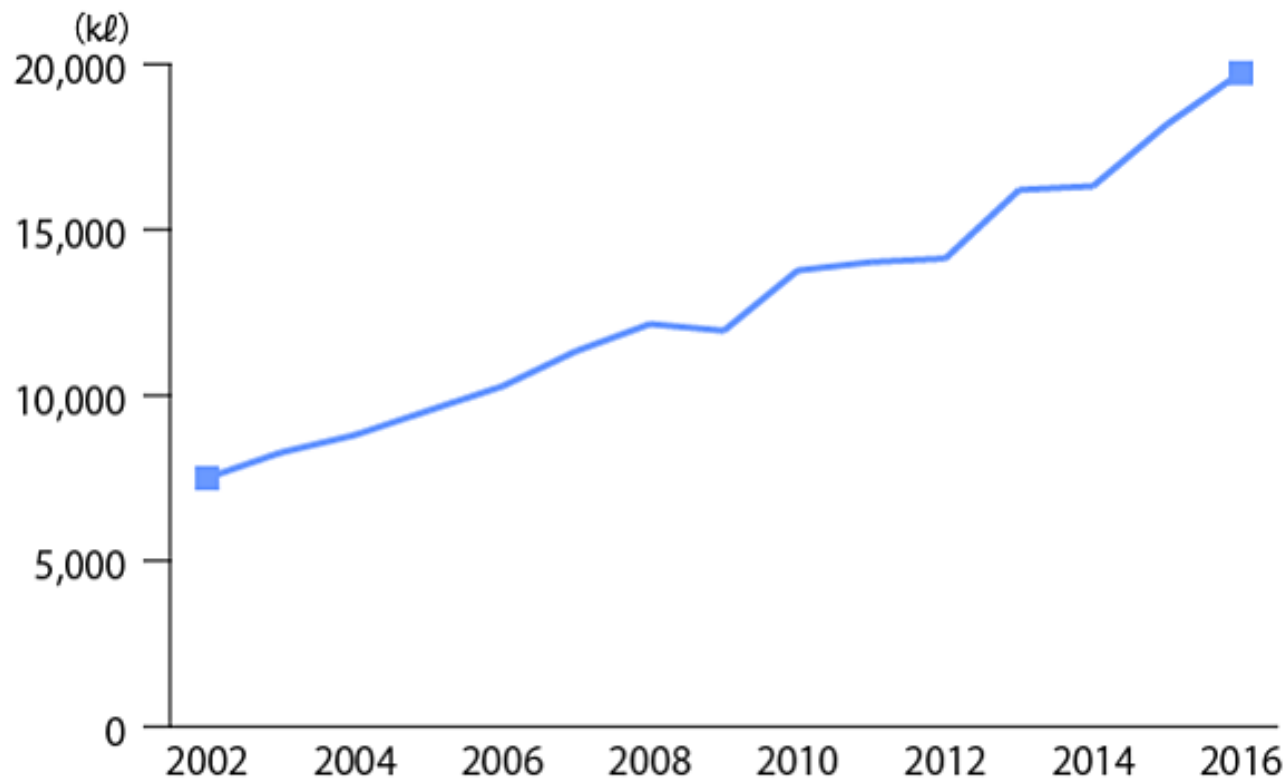


(出所) 日本酒造組合中央会

(注) 2015年は概算値

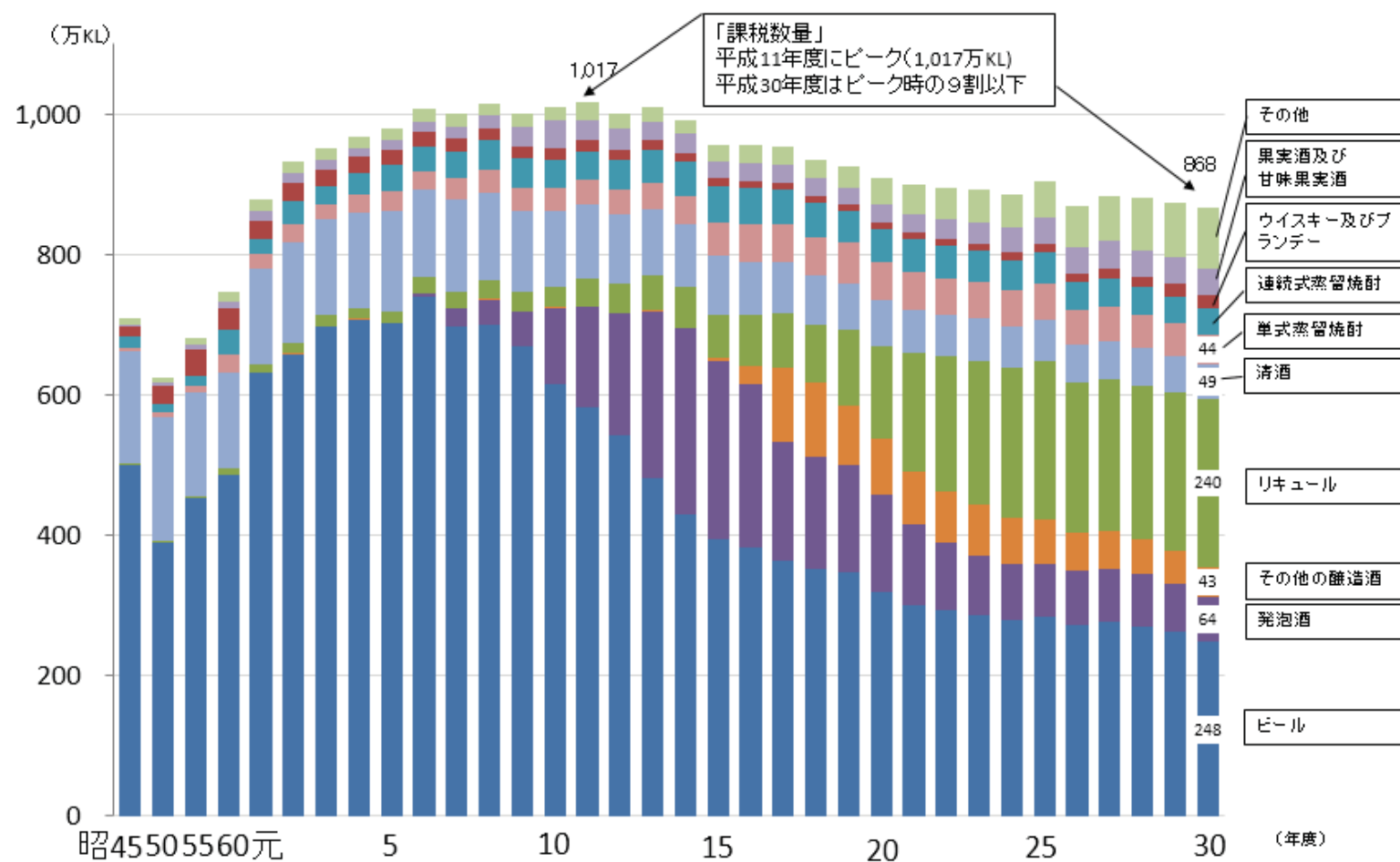
④日本酒の海外需要の現状

■ 清酒の輸出量の推移



(出所) 財務省「貿易統計」

⑤ 日本産酒類の現状



2. 事業概要

酒蔵ツーリズムとは

「利き猪口の中には、日本が詰まっている」と言われるように、お酒造りにはそこに
関わる地域の方々の物語がたくさん存在します。

酒蔵ツーリズムとは、日本酒・焼酎・泡盛・ワイン・ビールなどの酒蔵を巡り、地域
の方々と触れ合い、お酒を味わう。

そして、そのお酒が育まれた土地を散策しながら、その土地ならではの郷土料理や伝
統文化を楽しむ旅行のことです。

世界中のお酒ファンの方々に、その地でしか味わえない「酒蔵ツーリズム体験」を是
非楽しんで頂ければと思っております。

■公式サイト：<https://www.nihon-kankou.or.jp/sakagura/>

※2020年3月下旬より新しくなりました

①地域経済・産業の状況

過疎化・高齢化・後継者不足などによって、地域全体の農業や地場産業が衰退傾向にある。

②地域内での連携

単体での推進・集客は難しく、自治体をはじめ地域のステークホルダーと連携して、観光客対応の整備や情報発信・マーケティングデータの管理を行う必要がある。

③他地域・異業種との連携

他地域の先進事例の共有や異業種との連携の機会が少ない。

④インバウンド観光客対応

インバウンド観光客への対応・プロモーション方法について情報が不足している。

⑤交通網の状況

鉄道やバスの廃線、ダイヤ縮小などが行われているが、観光資源の連携のためには二次交通の整備も重要である。

①国内の状況

- ・日本産酒類全体の国内出荷量は減少傾向にあり、特に若者には日本酒離れがおきている。
- ・日本全国の酒蔵の数はこの20年で約3,000から約1,400へ減少しており、特に中小の酒蔵では厳しい経営状況が続いている。

②海外からの需要

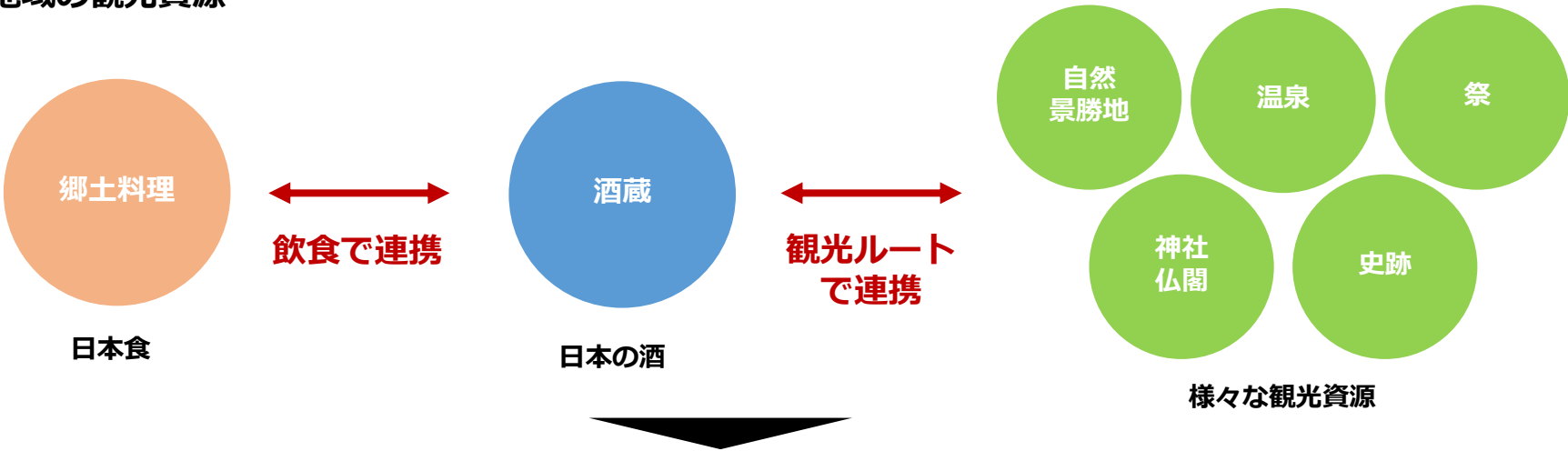
- ・日本産酒類の輸出量は、日本食ブーム等を背景に増加傾向にある。
- ・2018年の訪日外国人は3,000万人を超え、2020年には4,000万人を目指している。
- ・行き先や目的の多様化が進んでおり、日本でしか体験できない食文化やそれを育んだ各地域の歴史・伝統などにも関心が強まっている。

■インバウンド観光客の需要

(観光庁 訪日外国人の消費動向 平成30年 年次報告書より)

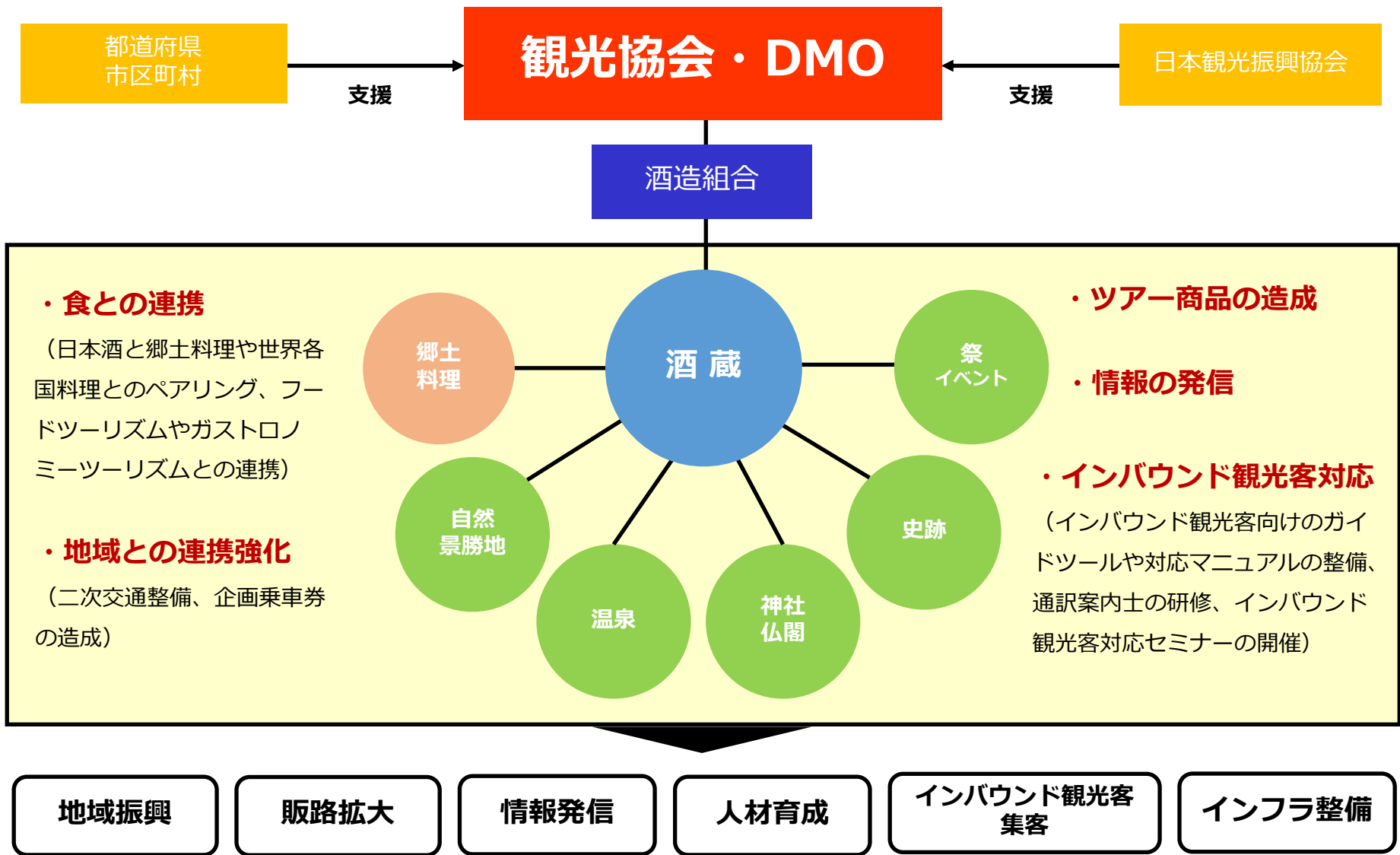
【A】 訪日前に期待していたこと	【B】 今回の訪日時にしたこと	【C】 B内での満足度
①日本食を食べること	①日本食を食べること	①日本食を食べること
②ショッピング	②ショッピング	②自然・景勝地観光
③自然・景勝地観光	③繁華街の街歩き	③温泉入浴
④繁華街の街歩き	④自然・景勝地観光	④ショッピング
⑤温泉入浴	⑤日本の酒を飲むこと	⑤繁華街の街歩き
⑥日本の酒を飲むこと	⑥温泉入浴	⑥日本の酒を飲むこと

■地域の観光資源



- ・インバウンド観光客は、日本の酒への関心度と満足度が高い
- ・日本の酒や酒蔵見学は、インバウンド観光客の関心度が高い「日本食、ショッピング、自然・景勝地観光」との関連性も高い

⇒ 酒蔵は、食や観光資源を繋げ、ツーリズムの需要を創出できる存在



酒蔵ツーリズムによって、地域全体に継続的な経済波及効果が生み出され
「地域活性化」へと繋がっていくことを目指します。

2. 事業内容

モデル地域づくりの支援

- ・やまがた観光キャンペーン推進協議会（山形県）、兵庫・北播磨インバウンド推進会議（兵庫県）のモデル事業を支援

会員共同プロモーションの実施

- ・日本観光振興協会、日本旅行業協会、JNTO主催『ツーリズムEXPOジャパン』にブース出展
- ・日本酒造組合中央会主催『日本酒フェア』にブース出展
- ・オフィシャルサイト<https://sakefan-tourism.com/>及びSNSの運営

会員向け施策の共有・標準化

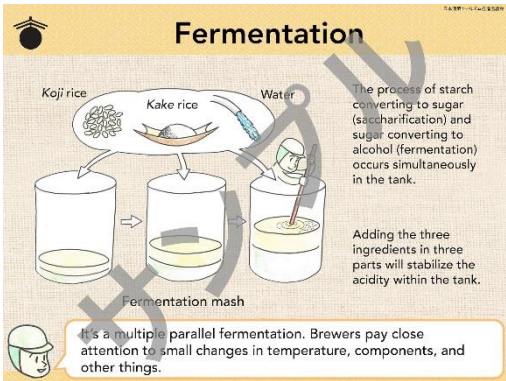
- ・英語版 酒蔵ガイド・マニュアル等の『外国人受入態勢標準化ツール』を作成、共有

酒蔵モニターツアーの実施

- ・高感度富裕層向けモニターツアー『郵船クルーズ（飛鳥Ⅱ）と連携による酒蔵及び地域観光のオプションツアー』の実施（福井県敦賀市）
- ・海外高感度富裕層向け通訳案内士によるモニターツアーの実施（福島県会津若松市他）
- ・通訳案内士を活用した外国人向け酒蔵ツアーの実施（千葉県香取市佐原）

事務局運営

- ・事務局運営（総会・運営委員会の開催、会員向けメール配信など）



2018/6/16 日本酒造組合中央会主催『日本酒フェア2018』にブース出展



2018/9/20～23 日本観光振興協会、日本旅行業協会、JNTO主催『ツーリズムEXPOジャパン2018』にブース出展



DMO形成支援

- ・一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社（海の京都DMO）のモデル事業を支援

会員向け施策の共有・標準化

- ・中国語版 酒蔵ガイド・マニュアル等の『外国人受入態勢標準化ツール』を作成、共有

酒蔵モニターツアーの実施

- ・海の京都ナイトタイムコンテンツを活用したメディア・エージェント向けフードツアー（京都府北部5市2町（福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町））
- ・東京酒蔵巡り視察ツアー（東京都多摩市）

研修会の開催

- ・通訳案内士・観光関係者・協議会会員向け
第1回 酒蔵ツーリズム研修 ～美酒県山県の酒を知る～（東京都北区）
- ・観光関係者・協議会会員向け
酒蔵ツーリズム研修プロフェッショナルセミナー（大阪府）
- ・観光関係者・協議会会員・一般向け
第2回 酒蔵ツーリズム研修 ～東京の酒を知る～（東京都北区）

事務局運営

- ・事務局運営（総会・運営委員会の開催、会員向けメール配信など）
- ・オフィシャルサイト<https://www.nihon-kankou.or.jp/sakagura/>及びSNSの運営

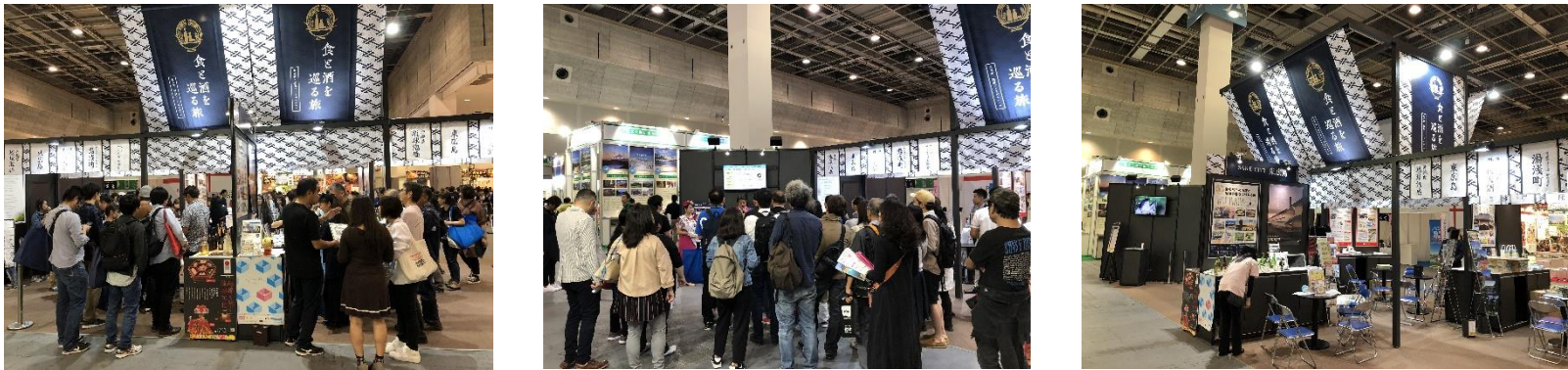


令和元年度のプロモーション事業実績

2019/6/15 日本酒造組合中央会主催 『日本酒フェア2019』 にブース出展



2019/10/24～27 日本観光振興協会、日本旅行業協会、JNTO主催 『ツーリズムEXPOジャパン2019大阪』 にブース出展



2020/2/8～9 日本観光振興協会主催 『晴れの酒、花の宴。』 の開催



外国人受入れ態勢標準化ツール（酒蔵ガイド）の提供

酒蔵がインバウンド観光客を受入れ、「試飲・販売・見学」などの案内を行うためには、「時間・手間・言語」といったハードルが存在する。

日本酒蔵ツーリズム推進協議会では、インバウンド観光客に向けた酒蔵案内をサポートするため、『酒蔵ガイド（外国人受入れ態勢標準化ツール）』を作成、会員向けに提供している。

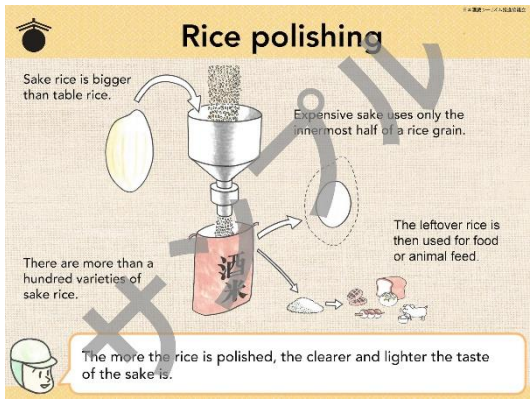
■ 提供可能言語

- ・ 英 語：見学者側の表面、説明用の裏面
- ・ 中国語：簡体字／繁体字、表面のみ

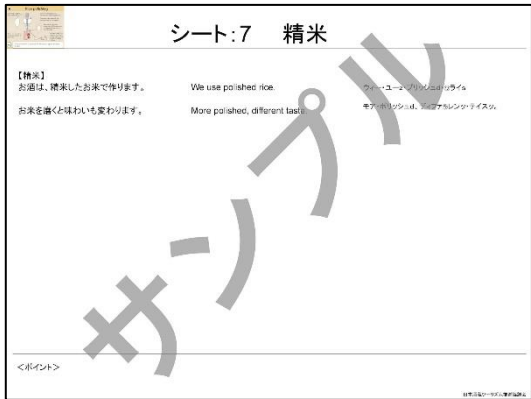
■ 内容 特に日本酒造りならではの特徴を、分かりやすい英語で説明しており、裏面にカタカナで英語の読み方を表示しており、誰でもが外国人に説明できるツールとなっている。

■ 詳細：<https://www.nihon-kankou.or.jp/sakagura/guidetool/>

【英語版】表面



【英語版】裏面



【中国語版】表面



酒蔵ツーリズムサイト 海外への発信、 ロンリープラネットとの提携、海外展示会への出展

■ 海外への発信

① 日本観光振興協会「観るなび 酒蔵ツーリズム」サイトにて、酒蔵英語サイトで情報を発信している。
<https://www.nihon-kankou.or.jp/sakagura/english/>

② ロンリープラネットなど、海外発信サイトと連携する予定。

■ 「ロンリープラネット」との連携（令和3年度 国税庁 日本産酒類海外展開支援事業費 補助金ブランド化事業）

- ・ 「酒蔵ツーリズム」の取り組みを発信する予定。

※ 「ロンリープラネット」とは

特に、個人旅行者向けの情報に強みを持っている、世界最大のガイドブックです。
近年は紙のガイドブックに留まらず、オンラインでの展開も拡張しており、
月間ユニークビジター数は1300万を超え、ページビューは4400万以上。

■ 海外展示会への出展

（令和3年度 国税庁 日本産酒類海外展開支援事業費補助金ブランド化事業）

- ・ 令和3年度は、ドイツを中心に海外展示会へ出展、プロモーション活動を展開。



兵庫県北播磨モデル事業

1) 事業の趣旨

兵庫県北播磨地域は、最高級酒米「山田錦」の発祥の地であり最大生産地である。ラグビーワールドカップをはじめとする国際スポーツイベントが日本にて開催される機会に、兵庫が誇るスポーツ資源であるゴルフ場を活用したゴルフツーリズムと結びつけることで、酒米産地に焦点をあてた日本酒ツーリズムを推進する。

2) 期間

平成30年7月～平成31年2月下旬

3) 実施内容

山田錦稲刈り体験モニターツアー

動画作成



山形県モデル事業

1) 事業の趣旨

平成30年5月、我が国で3回目、東北では初めてとなる、IWC2018「SAKE部門」審査会が県内で開催され、山形県は、9部門中3部門において、部門最高賞となるトロフィーを獲得する。県では、こういった「日本一の美酒」をはじめ、さくらんぼなどの美味しい果物、米沢牛といった「美食」を前面に掲げ、温泉、伝統文化、景観など、様々な観光資源と組み合わせた観光誘客施策を戦略的に展開することとしている。2016年GI認定（国税庁）

2) 期間

平成30年9月から平成31年1月下旬

3) 実施内容

国内外旅行会社向け研修（FAMツアー、各地域での説明会）

酒蔵説明資料の多言語化

二次交通関連事業



文化財としての酒蔵を活用した訪日誘客事業

日本酒に関する文化財をより感じてもらうために解説映像とVRで提供。
手持ちのスマートフォンや、現地で貸出するタブレットから、
360度見渡せるVR映像や解説映像、音声ガイドで理解力を深める。
これらの最先端コンテンツで、より魅力を感じてもらえるプロモーションを行っていく。

<東京都北区>

- ・ 旧醸造試験所第一工場（赤煉瓦酒造工場）
： 国指定重要文化財



<東京都福生市>

- ・ 石川酒造 本蔵・新蔵・向蔵・雑蔵・長屋門・文庫蔵
： 国指定登録有形文化財(建造物)
- ・ 田村酒造 酒造蔵・前蔵・雑蔵・旧水車小屋及び脇蔵・石垣
： 国指定登録有形文化財(建造物)



受賞実績

「スポーツ文化ツーリズムアワード2020」【食文化ツーリズム賞】特別賞 受賞

令和2年2月8日・9日に開催した「晴れの酒、花の宴。」をはじめとする、日本酒蔵ツーリズム推進協議会が取り組んでいる事業について、酒・食文化を含む日本文化の周知、文化財の認知拡大等を評価頂く。



1. 酒蔵、日本産酒類を日本独特の文化を背景にした重要な観光資源として位置づけ、地域の観光ブランディングに活用する
2. 消費量が落ちている、特に日本酒の消費拡大のために、訪日客の日本酒に対する関心を最大限活用する
3. ステークホルダーである、生産者の酒蔵のインバウンド対応のストレスを軽減するための受け入れ態勢の整備を行う
4. ユニークな日本酒の製法を多言語で伝えることにより、関心が高まり、消費に結びつくしくみをつくる
5. 解説 (Interpretation)の担い手が大切であり、通訳案内士、旅館の従業員、飲食店の店員等への研修を実施
6. 酒蔵ツーリズムを、魅力ある観光資源と位置づけ、観光関連団体、旅行会社、宿泊施設などと連携する

『日本産酒類の酒蔵は、全国47都道府県にあり、地域の自然、風土、文化と密接に関係しており、それぞれが特徴がある。今後地域の魅力を体験するツアーを造成するに当たってはキラーコンテンツとなり得る魅力ある素材である』

(参考) 日本酒蔵ツーリズム推進協議会について

■ 設立目的

- （１）日本酒蔵ツーリズムの振興を通して、日本産酒類（日本酒、焼酎、泡盛、日本ワイン、ビール等）の認知拡大と価値向上に貢献する。
- （２）日本産酒類を観光資源として活用し、酒蔵とその周辺地域の観光振興と経済的発展を支援することで、地方創生を実現する。

■ 目指すべきゴール

- ・ 日本産酒類への関心と価値を高めることで地域の魅力をアピールし、国内およびインバウンド観光客の地方への誘客が促進できている。
- ・ 酒蔵が他の観光資源や食と連携して地域の観光力が強化されることで、地域全体に継続的な経済波及効果を生み出し、地域活性化に貢献できている。
- ・ 日本酒蔵ツーリズムが、地域のすべてのステークホルダーにとってメリットのあるものと認識されている。
- ・ 国内外の観光客に対する受入体制の平準化とレベルアップが実現され、日本酒蔵ツーリズムの旅行商品が日常的に販売されている。

■ 役員・組織体制

- 会 長：細野 助博（中央大学 名誉教授）
- 副会長：佐浦 弘一（株式会社佐浦 代表取締役社長）
- 副会長：宮坂 不二生（東北・夢の桜街道推進協議会 事務局長）
- 副会長：久保田 穰（公益社団法人日本観光振興協会 副理事長）
- 行政運営委員：14名
- 民間運営委員：20名

参加団体：88団体（2020年3月末時点）

＜お問い合わせ先＞

公益社団法人 日本観光振興協会（日本酒蔵ツーリズム推進協議会 事務局）

メール：sakagura@nihon-kankou.or.jp

公式サイト：<https://www.nihon-kankou.or.jp/sakagura/>